



未来を創造する技術とアイデアが結合するテクノロジーアートの祭典
“MEDIA AMBITION TOKYO 2017 (メディアアンビショントーキョー2017)”
 2017/2/11 (土) – 3/12(日) まで都内各所で開催

**主催 MAT実行委員会**

六本木ヒルズ / CG-ARTS / JTQ Inc. / Rhizomatiks

会期 2017/2/11 (土) – 3/12(日)

開催期間は会場によって異なります。

会場

- | | |
|---|-----------------------------|
| 01. 六本木ヒルズ [六本木] | 06. チームラボ [水道橋] |
| 02. ART & SCIENCE GALLERY LAB AXIOM [六本木] | 07. ラフォーレミュージアム原宿 [原宿] |
| 03. アンスティチュ・フランス東京 [飯田橋] | 08. 日本科学未来館 [お台場] |
| 04. 渋谷ヒカリエ [渋谷] | 09. Apple Store, Ginza [銀座] |
| 05. デジタルハリウッド大学 [御茶ノ水] | |

About MEDIA AMBITION TOKYO

今年で5回目を迎えるMEDIA AMBITION TOKYO [MAT] は、最先端のテクノロジーカルチャーを実験的なアプローチで都市実装するリアルショーケースです。六本木を中心に、渋谷、原宿、銀座、飯田橋、御茶の水、水道橋、お台場等、都内各所を舞台に最先端のアートや映像、音楽、パフォーマンス、トークショー等が集結します。

国内外の様々な分野のイノベーターや企業、イベントが参画することで、多様なプログラムが都市のあちこちに有機的に増殖し、拡大し、つながり、MATはこれらを含む活動体として成長を続けています。

2020年、そしてその先の未来を見据えて移動や通信、情報を含んだ都市システムのありかたが大きく変化している今、都市の未来を創造するテクノロジーの可能性を東京から世界へ提示。ジャンルやカテゴリーの枠を超えたボーダーのない自由な実証実験により、未来を変革するムーブメントを実体化するようなテクノロジーアートの祭典を目指します。

【プレスマテリアルのダウンロード先】

<http://www.image.net/mediaambitiontokyo2017>

【取材及び本件に関するお問い合わせ先】

HIRAO INC 担当:御船 mifune@hirao-inc.com / Tel 03-5771-8808 / Fax 03-5410-8858

<MAT2017の見どころ>

■第一線で活躍している話題のアーティストが参加

ライゾマティクス、チームラボ、WOWなど、さまざまなジャンルの第一線で活躍している作家たちがMATには参加してきました。本年からは新たに、デジタルネイチャーを提唱する落合陽一や、デザインとエンジニアリングを横断するTakram、アルスエレクトロニカにも出展した脇田玲・小室哲哉等が加わりました。

■次代のテクノロジカルチャーを担う若手作家を紹介

東京から新しい文化が生まれ続けるためには、次代の作家を育み社会に送り出していくことが欠かせません。MATでは今回も厳選した若手作家を紹介。

また世界各地で話題の展覧会を仕掛けるチームラボは、子供たちに向けてワークショップを開催。未来のテクノロジカルチャーを育みます。

■テクノロジーアートに「笑い」を！

テクノロジーと笑いを掛け合わせた「スマイルテック」をスローガンに、今回のMATでは笑いを誘う作品を数点とりあげました。テクノロジーとアートが私たちのコミュニケーションを活性化させていくには「笑い」は重要な要素になるでしょう。日常に潜む笑いの要素をテクノロジーアートによってすくいあげ、直観的に楽しめる作品をノミネートしました。

■新しい視覚体験

テクノロジーは日々進歩していますが、機能的なスペックの向上だけではもはや大きな意味を持ちにくくなっています。アーティストやデザイナーが文化的意味を加えることによって本当の新しい価値になって行きます。今回のMATでは、没入感のある全天球型スクリーンやシャボン膜に映像を映すColloidal Displayなど新しい視覚体験を提供します。

■テクノロジーを活用した未来のバリアフリーとOMOTENASHI

2020年東京オリンピックに向けて、「おもてなし」のスローガンのもと、テクノロジーがコミュニケーションに及ぼす影響やその可能性を提示。

本イベントではトークセッション時に、コミュニケーションのユニバーサルデザインを支援する「UDトーク」を採用。トークセッションの内容は、音声認識+音声合成機能を用いてリアルタイムで字幕を作成。多言語の翻訳機能も実装することで、聴覚障害バリアフリーだけではなく言語バリアフリーにも対応。テクノロジーを活用し、あらゆる人が享受できる場を実証実験します。

また、異文化コミュニケーションの可能性を探るプロジェクトとして、「タクシー運転手と外国人観光客」という典型的な会話を舞台に、顔交換アルゴリズムやテキスト読み上げ機能を使って「おもてなし」をユーモアを織り交ぜて表現。

【プレスマテリアルのダウンロード先】

<http://www.image.net/mediaambitiontokyo2017>

【取材及び本件に関するお問い合わせ先】

HIRAO INC 担当:御船 mifune@hirao-inc.com / Tel 03-5771-8808 / Fax 03-5410-8858

<MAT EXPERIENCE>

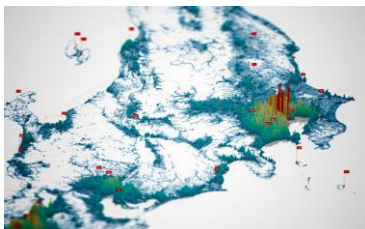
01. 六本木ヒルズ 森タワー52階 東京シティビュー

[六本木]

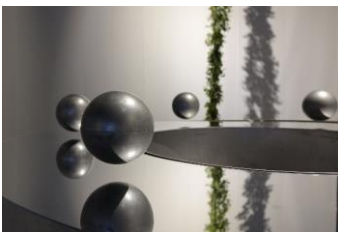
日程: 2017/2/11 (土) -3/12(日) / 時間: 10:00-22:00
 入場料: 無料 (東京シティビュー入場料が別途かかります。)



Rhizomatiks Architecture
 作品名: ワークショップシリーズ
 architecture x technology



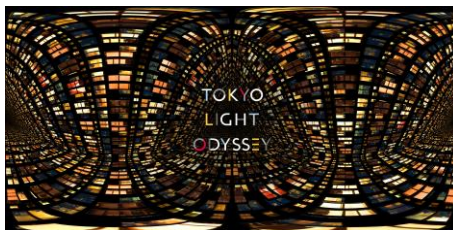
松田 聖大(Takram)
 作品名: Planck



YoichiOchiai
 落合 陽一
 作品名: Levitrope



松枝 悠希
 作品名: 「Today's happy colors!」



WOW
 作品名: TOKYO LIGHT ODYSSEY :
 future by LEXUS



伊東 実(Takram)
 作品名: Playful Hands



YoichiOchiai
 落合 陽一
 作品名: Colloidal Display

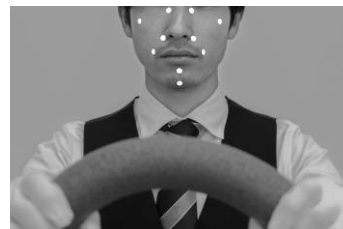


寺田 鵬弘
 作品名: テラダの展示



© AKI INOMATA Courtesy of MAHO KUBOTA GALLERY

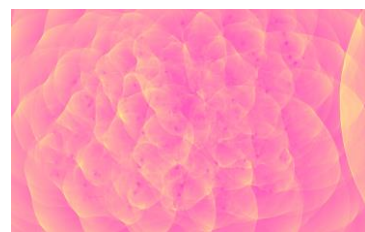
AKI INOMATA
 作品名: 進化への考察 一菊石について



牛込 陽介(Takram)
 作品名: Omotenashi Mask



Digital Nature Group
 (筑波大学 落合陽一研究室)

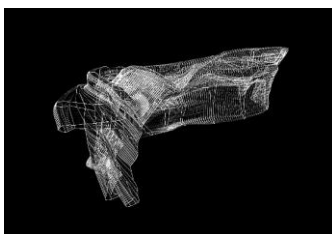


脇田 玲&小室 哲也
 作品名: Scalar Fields

【プレスマテリアルのダウンロード先】
<http://www.image.net/mediaambitiontokyo2017>



Toshiya Yui
油井 俊哉+横田 智大+橋田 朋子
作品名: floatio



AKINORI GOTO
後藤 映則
作品名: toki- series_#01



佐々木 遊太
作品名: ズームイン顔



佐々木 遊太
作品名: 鈴木よしはる

DIGITAL CHOC 2017 コラボレーションアーティスト

受賞報告作品



Courtesy of the artist
ダヴィッド・ルテリエ
作品名: ヴァーサス



Clack - David Gallard / Scopitone 2016
ノガミカツキ
作品名: Rekion Voice - 磔音-
※3月3日(金)~3月12日(日)森タワー3階プレゼンテーションルーム



水口 哲也 (代表アーティスト)
作品名: Rez Infinite
※米国The Game AwardsベストVR賞・PlayStation Awards VR特別賞

01. 六本木ヒルズ

六本木ヒルズけやき坂『Counter Void』

[六本木]



photo by 丸尾隆一

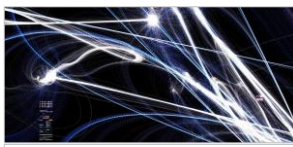
東日本震災を機に消灯し続けている、「生と死」をテーマにした宮島達男のパブリックアート作品『Counter Void』に光を灯す3日間。社会彫刻家を育成する市民大学「Relight Committee」による企画やトークセッションなどを通じて、未来の生き方や人間のあり方を考えます。

アーティスト: Relight Project
プロジェクト名: Relight Days 2017

場所: 六本木ヒルズけやき坂『Counter Void』
日程: 2017年3月11日(土) 14:46- 13日(月) 23:59 / 入場料: 無料
主催: 東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、NPO法人インビジブル
特別協力: MEDIA AMBITION TOKYO
<http://relight-project.org/>

02. ART & SCIENCE GALLERY LAB AXIOM

[六本木]



ART & SCIENCE GALLERY LAB AXIOM



技術的側面と文化的側面の両面を併せ持つ若手作家の作品を展示。

AXIOM Selection 01

場所: ART & SCIENCE GALLERY LAB AXIOM
会期: 2017年1月21日(土) - 2月25日(土) / 13:00-19:00
休館: 日・月・祝日

昨年度の文化庁メディア芸術祭で優秀賞を受賞した長谷川愛の『私はイルカを産みたい』と『シェアードベイビー』を日本初公開。

Ai Hasegawa 『Second Annunciation』

場所: ART & SCIENCE GALLERY LAB AXIOM
会期: 2017年1月28日(土) - 2月25日(土) / 13:00-19:00
休館: 日・月・祝日

【プレスマテリアルのダウンロード先】

<http://www.image.net/mediaambitiontokyo2017>

【取材及び本件に関するお問い合わせ先】

HIRAO INC 担当:御船 mifune@hirao-inc.com / Tel 03-5771-8808 / Fax 03-5410-8858

03.アンスティチュ・フランセ東京

[飯田橋]



日本とフランスのメディアアートのフェスティバル。
人工知能や、機械と人間の関係を探究するプログラム

第6回 デジタル・ショック ―欲望する機械―

アーティスト：宇治野宗輝 UJINO、Patrick Tresset、Samuel Bianchini、他

場所：アンスティチュ・フランセ東京、他

日程：2017年2月10日(金)-3月20日(月・祝)

主催：アンスティチュ・フランセ日本

www.institutfrancais.jp/digitalchoc

04.渋谷ヒカリエ 8F 8/ CUBE 1, 2, 3

[渋谷]



デジタルとフィジカルなものづくりの高度な連携によって生まれる作品・発明を評価し、贈賞するグローバルアワード。

YouFab Global Creative Awards 受賞作展示会

場所：渋谷ヒカリエ 8F 8/ CUBE 1, 2, 3

日程：2017年3月8日(水) - 3月19日(日)

時間：11:00-20:00 (最終日のみ18:00予定)

入場料：無料

主催：FabCafe <http://www.youfab.info/2016/?lang=jp>

05.デジタルハリウッド大学

[御茶ノ水]



※イメージ

参加決定!!!

詳細は、後日公式サイトにて公開。

06.チームラボ

[水道橋]



チームラボの原動力が詰まった創作の現場を体験する子供向けワークショップ

チームキッズラボ

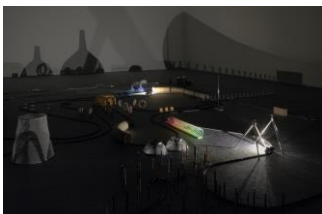
アーティスト:チームラボ

場所：チームラボ

詳細は、後日公式サイトにて公開。

07.ラフォーレミュージアム原宿

[原宿]



「風景と映像(view or vision)」2016年クワクボリョウタ
撮影：椎木静華 写真提供：宇都宮美術館 (2016年)

先端的技術と芸術的創造の融合を目指す

ユニークな教育機関IAMASと創るメディア表現の現在

Calculated Imagination IAMASが発信するメディアアート展

アーティスト：クワクボリョウタ、三原聡一郎、菅野創、山城大督、村山誠、石塚千晃他

場所：ラフォーレミュージアム原宿

日程：2017年3月10日(金) - 3月16日(木)

時間：11:00-21:00

入場料：無料

主催/企画制作：ラフォーレ原宿/情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]

08.日本科学未来館

[お台場]



アニメーション、映像、ゲーム、パフォーマンス、メディアアートなど
さまざまなジャンルの次代を担う才能に出会えます。

学生CGコンテスト受賞作品展 | Campus Genius Meeting

場所：日本科学未来館 1Fコミュニケーションロビー

日程：2017年2月24日(金) - 26日(日) 入場無料

内容：第22回受賞作品の展示、上映、トークイベントなど

主催：CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会)

<http://campusgenius.jp/2016/>

【プレスマテリアルのダウンロード先】

<http://www.image.net/mediaambitiontokyo2017>

【取材及び本件に関するお問い合わせ先】

HIRAO INC 担当:御船 mifune@hirao-inc.com / Tel 03-5771-8808 / Fax 03-5410-8858

<MAT LIVE>

01. 六本木ヒルズ 森タワー52階 東京シティビュー

[六本木]

MEDIA AMBITION TOKYO ライブ

「Digitally Scape」

日程：2017年2月11日(土) 20:00-23:30
会場：六本木ヒルズ森タワー52階 東京シティビュー

エレクトロニクス・ファンタスティコス！
和田永

古い電化製品を使ってオリジナルな楽器を産み出してきたアーティストの和田永が、あらゆる人を巻き込みながら新たな楽器を創作し、量産し、奏法を編み出し、徐々にオーケストラを形づくっていくプログラム。



Photo by Mao Yamamoto

UNSOUND INTERACTIVE LIVE
▽Musicians:ギル久野、ケンイシイ、山川冬樹
▽VJs:Kezzardrix、Savka、橋本麦

会場内ではキック音だけが鳴り響き、そのビートに合わせて3人のミュージシャンと3人のVJが同時に演奏。参加者は好きなミュージシャンの音楽をFMラジオで受信し、好きなVJの映像を見ながら楽しむことができる多様性が共存する実験的なパフォーマンスです。



ギル久野 Photo: Julia Urban



ケンイシイ



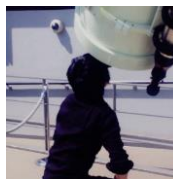
山川冬樹



Kezzardrix



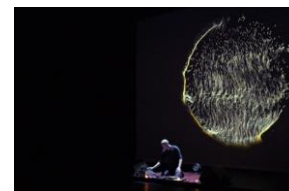
Savka



橋本麦

ダヴィッド・ルテリエ (a.k.a Kangding Ray)

「ラスター・ノートン」や「ストロボスコープ・アーテファクト」等の著名なレーベルにおいて、カンディング・レイの名でも知られるダヴィッド・ルテリエ。本ライブでは、彼の芸術活動全体、とりわけインスタレーション作品『ヴァーサス』に因んだ実験的なサウンドピースをお届けします。



Courtesy of the artist

澤井妙治

音の仕事。様々な環境下での音の与える効果にフォーカスし、新たなサウンド・インタラクションの可能性を追求する。2000年頃よりportable[k]ommunityとしての活動をはじめ、ソロ名義では、可聴域を越えた周波数を用いてオーディエンスの鼓膜を特殊な手法で揺らしたり、ラディカルなパフォーマンスを行う。



※本プロジェクトは、内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局の委託により、平成28年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査として実施しています。

【プレスマテリアルのダウンロード先】

<http://www.image.net/mediaambitiontokyo2017>

【取材及び本件に関するお問い合わせ先】

HIRAO INC 担当:御船 mifune@hirao-inc.com / Tel 03-5771-8808 / Fax 03-5410-8858

日程：2017年2月12日(日) 13:30-18:10

※入場料: 無料 (東京シティビュー入場料が別途かかります。)

会場：六本木ヒルズ森タワー52階 東京シティビュー

13:30 - 14:30 アーティスト・プレゼンテーション (ギャラリーツアー)
出演：AKI INOMATA、落合陽一、後藤映則、佐々木遊太、寺田鵬弘、油井俊哉 他

16:00 - 17:00 セッション1「アーティストにとってのテクノロジー」
出演：落合陽一 (メディアアーティスト)、八谷和彦 (メディアアーティスト)
司会：岩淵貞哉 (美術手帖)



落合陽一 (筑波大学助教 / メディアアーティスト)

筑波大学でメディア芸術を学び、東京大学で学際情報学の博士号を取得(学際情報学初級の早期修了者)。2015年より筑波大学助教。映像を超えたマルチメディアの可能性に興味を持ち、デジタルネイチャーと呼ぶビジョンに向けて研究に従事。情報処理推進機構よりスーパークリエイター/天才プログラマー認定に認定。World Technology Award 2015年、世界的なメディアアート賞であるアルスエレクトロニカ賞受賞など、国内外で受賞歴多数。



八谷和彦 (メディアアーティスト)

1966年4月18日(発明の日)生まれの発明系アーティスト。九州芸術工科大学(現九州大学芸術工学部)画像設計学科卒業、コンサルティング会社勤務。その後(株)PetWORKsを設立。現在にいたる。作品に《視聴覚交換マシン》や《ポストベット》などのコミュニケーションツールや、ジェットエンジン付きスケートボード《エアボード》やメーヴェの実機を作ってみるプロジェクト《オープンスカイ》などがあり、作品は機能をもった装置であることが多い。2010年10月より東京芸術大学 美術学部 先端芸術表現科 准教授。



岩淵貞哉 (美術手帖 編集長)

1975年生まれ。慶応義塾大学経済学部卒業。2002年から『美術手帖』編集部に在籍、2008年より現職。2015年に立ち上げた、『美術手帖 国際版』およびアートニュースサイト「bitecho [ビテチョー]」の編集長も務める。

17:10 - 18:10 セッション2「見えない関係性を見るようにする」
出演：田川欣哉(Takram)、脇田玲 (慶應大学教授)
司会：若林恵 (WIRED)



田川欣哉 (Takram)

ハードウェア、ソフトウェアからインタラクティブアートまで、幅広い分野に精通するデザインエンジニア。主なプロジェクトに、トヨタ自動車「INS4」のUI設計、日本政府のビッグデータビジュアライゼーションシステム「RESAS-地域経済分析システム」のプロトタイプ開発、NHK Eテレ「ミミクリーズ」のアートディレクションなどがある。日本語入力機器「tagtype」はニューヨーク近代美術館のパーマネントコレクションに選定されている。東京大学機械情報工学科卒業。英国Royal College of Art, Industrial Design Engineering修了。LEADING EDGE DESIGNを経て現職。英国Royal College of Art客員教授。



脇田玲 (慶應大学教授)

流体力学や熱力学のモデルに基づく独自ソフトウェアを開発し、「日常に隠された絶景」をあぶり出すようなビジュアライゼーションの制作に注力している。これまでにアルス・エレクトロニカ・センター、WROアートセンター、SIGGRAPH、文化庁メディア芸術祭などでメディア・アート作品を展示するとともに、日本科学未来館のARシステムGeo-Prismに海流ビジュアライゼーションを提供するなど、アートとサイエンスを横断する活動を続けている。慶應義塾大学環境情報学部教授。博士(政策・メディア)。



若林恵 (WIRED 日本版編集長)

1971年生まれ。ロンドン、ニューヨークで幼少期を過ごす。早稲田大学第一文学部フランス文学科卒業。大学卒業後、出版社平凡社に入社。『月刊 太陽』の編集部スタッフとして、日本の伝統文化から料理、建築、デザイン、文学などカルチャー全般に関わる記事の編集に携わる。2000年にフリー編集者として独立し、以後、雑誌、フリーペーパー、企業広報誌の編集制作などを行ってきたほか、展覧会の図録や書籍の編集も数多く手がける。また、音楽ジャーナリストとしてフリージャズからK-POPまで、広範なジャンルの音楽記事を手がけるほか、音楽レーベルのコンサルティングなども。2011年より現職。趣味はBOOKOFFでCDを買うこと。

※本プロジェクトは、内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局の委託により、平成28年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査として実施しています。

【プレスマテリアルのダウンロード先】

<http://www.image.net/mediaambitiontokyo2017>

【取材及び本件に関するお問い合わせ先】

HIRAO INC 担当:御船 mifune@hirao-inc.com / Tel 03-5771-8808 / Fax 03-5410-8858

<MAT TALK>

日程：2017年2月16日（木）19:00-20:00

※入場料：無料（東京シティビュー入場料が別途かかります。）

会場：六本木ヒルズ森タワー52階 東京シティビュー

※作品の前でトークを行います。



澤良宏 (LEXUS INTERNATIONAL)

京都工芸繊維大学意匠工芸学科卒業。1980年入社。カローラなどの小型車外形デザインを担当。米国駐在、内外装デザインを経て、異色のデザイナー出身チーフエンジニアとして、プジョー・シトロエンと共同生産を行う欧州戦略車アイゴの開発を担当し、2013年には常務理事に就任。2016年4月に常務役員、Lexus International Executive Vice Presidentに就任。



於保浩介 (WOW)

多摩美術大学グラフィックデザイン科卒大手広告代理店を経てWOWに参加。広告を中心とした映像全般(CM、VI、PV)のプランニング及びクリエイティブディレクションを手がける。近年は空間を意識した映像表現に力を入れ、さまざまなインスタレーション映像のディレクションを国内外で手がけ活動領域を広げている。

工藤 薫 (WOW)

東北芸術工科大学デザイン工学部CG学科卒。広告映像から、様々な展示スペースにおけるインスタレーション映像、メーカーと共同で開発するユーザーインターフェイスのデザインなど様々な分野のビジュアルデザインを手がける。新しいアートやデザイン、価値観を仙台から発信しようと映像の可能性を追求しています。



谷川 じゅんじ (JTQ / スペースコンポザー / Media Ambition Tokyo実行委員会)

1965年生まれ。2002年、空間クリエイティブカンパニー・JTQを設立。
「空間をメディアにしたメッセージの伝達」をテーマにイベント、エキシビジョン、インスタレーション、商空間開発など目的にあわせたコミュニケーションコンテクストを構築、デザインと機能の二面からクリエイティブ・ディレクションを行う。D&AD賞入選。DDA 大賞受賞、優秀賞受賞、奨励賞受賞、他入賞多数。

MAT Committee

ROPPONGI HILLS / CG-ARTS / JTQ Inc. / Rhizomatiks

MAT Partner

LEXUS INTERNATIONAL/ Culture Convenience Club

Media Partners

朝日新聞社 / WIRED JAPAN / 美術手帖

PR Partners

HiRAO INC / Getty Images Japan K.K.

Special Cooperation

アンスティチュ・フランセ東京 / YouFab Global Creative Awards 2016 / Digital Hollywood University / Relight Project / ラフォーレミュージアム原宿 / ART & SCIENCE GALLERY LAB AXIOM / UDトーク

WEB <http://www.mediaambitiontokyo.jp>

Facebook <http://www.facebook.com/mediaambitiontokyo>

【プレスマテリアルのダウンロード先】

<http://www.image.net/mediaambitiontokyo2017>

【取材及び本件に関するお問い合わせ先】

HiRAO INC 担当:御船 mifune@hirao-inc.com / Tel 03-5771-8808 / Fax 03-5410-8858